

黒帯になって

山本 直緒

私が空手を始めたのは、小学校一年生のときでした。初めは友人がやっていて、自分もしたくなったのが空手を習った理由でした。初めは全然わからなくて、前の人がやっているのを真似するのがやっとでした。それでも、初めて組手をしたときとてもワクワクしました。それから審査も受けて級も上がっていきました。試合にも出ました。初めての試合は二回戦で負けてしまって、悔しくてとても泣いたのを覚えています。そして初めて入賞したときは、うれしくてたまりませんでした。勝つうれしさがわかった私は、もっと強くなりたいと思うようになりました。道場の先生の厳しい稽古も、嫌なときはあったけど頑張りました。

こうして九年、十年と空手を続けてきて、黒帯をとることができました。初めは軽い気持ちで始めた空手も、今は道場の仲間とする稽古の楽しさも知り、試合で勝ったときのうれしさ、負けたときの悔しさもたくさん学んで、空手は私にとってかけがえのない場所になりました。

私は高校生になるので、それと一緒に黒帯をとりたいと思いました、高校に合格したと師範に報告をしたときに、「昇段審査を受けたいです。」と言いました。師範は受けることを許してくれました。それから練習をたくさんしました。審査の前日、すごく緊張してなかなか眠れませんでした。当日の審査は思っていたよりしんどいし、厳しかったです。一番辛かったのは十人組手です。初めのほうは動けましたが、人数を重ねるごとに足も手も動かなくなりました。自分が頭で思っていることができなかったのも、とても悔しかったです。審査が終わってから、私は黒帯の先輩方がいかにすごいのかわかりました。先生も先輩もこの昇段審査を受けてこられたんだなと思いました。

何日か経って、師範に合格通知をいただきました。いただいたときすごくうれしかったです。それと同時に、帯に恥じないようにしようと思いました。審査でできなかったことも、もっと稽古をしてみんなに認めてもらえるような黒帯になりたいです。

『黒帯になれば』に書いたように、先生や先輩、後輩に信頼してもらえるような黒帯になりたいです。

そしてこれがゴールと思わず、これからも初心を忘れず、奈良支部に貢献できるようになりたいです。

最後に、今まで稽古をつけてくださった師範や先生、先輩ありがとうございました。これからも迷惑をおかけすると思いますが、頑張りますのでよろしくお願いします。押忍。